

## 日本橋駅(地下鉄堺筋線・千日前線)②

## 名作『夫婦善哉』ゆかりの地を訪ねて

「大阪あそ歩マップ集」  
その1 No.048

近鉄日本橋駅(近鉄難波線) 大阪難波駅(近鉄難波線・阪神なんば線)

なんば駅(地下鉄御堂筋線・四つ橋線・千日前線 南海本線・高野線) JR難波駅(JR大和路線)

## 地下鉄日本橋駅

## ①たこ梅

弘化元年(1844)、たこ甘露煮と関東煮の店として創業。創業者・岡田梅次郎の名前と「たこ」と呼ばれるカウンター形式の店であったことが屋号の由来といわれています。織田作之助の小説『夫婦善哉』では「北にはうまいもんを食わせる店がなく、うまいもんは何といっても南に限る」といって柳吉が蝶子を連れまわす店のうちのひとつに登場してきます。

## ②相合橋

正式な読み方は「あいあうばし」。架橋は、貞享年間(1684~88)といわれます。橋の南には芝居櫓が立ち並び、北にはお茶屋街が広がって華やかな雰囲気を醸し出し、その兩岸を結ぶ艶なる橋ということで相合橋と名づけられたといわれます。『夫婦善哉』では「五軒の出雲屋の中でまむしのうまいのは相合橋東詰の奴や」とあり、橋の東詰にオダサクお奨めの美味い出雲屋があったようです。

## ③法善寺横丁

昔ながらの浪花情緒を漂わせる横丁です。東西両端の門に掲げられた「法善寺横丁」の看板は、西は藤山寛美、東は3代目桂春團治が揮毫しています。

## ④花月跡

かつて法善寺横丁は南地金沢亭、紅梅亭という寄席がありました。南地金沢亭はその後、吉本興業創始者の吉本泰三・せい夫妻によって買収され、南地花月とな

りました。『夫婦善哉』では「法善寺の花月へ春団治の落語を聴きに行くと、ゲラゲラ笑い合せて、握り合ってる手が汗をかいたりした」と蝶子と柳吉のデートコースとして登場します。

## ⑤正弁丹吾亭

明治26年(1893)創業。店横の暗がりしょうべんだんごで小便する酔っ払いが多く小便桶を置いていたのが店名の由来という説があります。店前に「行き暮れて ところが思案の善哉かな」の織田作之助句碑があります。

## ⑥法善寺

寛永14年(1637)、専念法師により開山。正式名称は浄土宗天龍



山法善寺。「水掛不動さん」の名で親しまれている不動明王は商売繁盛、恋愛成就などに靈験あらたかで、お詣りの人々が掛ける水でいつも苔むしています。

## ⑦夫婦善哉

明治16年(1883)、文楽太夫・木文字重兵衛が善哉屋・お福を開店。一人前なのに二杯のお椀に分けて善哉を出しました。二つのお椀に分けたほうがたくさん入っているように見えるからで、また夫婦やカップルで食べると円満になれるという縁起物ですが、これが織田作之助の名作『夫婦善哉』の重要なモチーフとなりました。



地下鉄なんば駅

